

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0995
施設名	西葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区西葛西5-10-12
法人名	社会福祉法人えどがわ

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（おばけ屋敷ごっこ、製作）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

- ・他クラスにある妖怪図鑑を見て、おばけ屋敷をやってみたいという意見が出た為。
- ・年長クラス最後の夏の思い出を作る為。
- ・子ども達が自由に使える広いスペースと素材が多数ある為。

## 2. 活動スケジュール

週2回程度/令和7年7月から令和7年8月末

- ・7月：どのようなおばけ屋敷にするか話し合い
- ・8月：衣装・小道具・置物作り ・8月26日：おばけ屋敷当日

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・衣装作り：養生テープ・ビニールテープ・画用紙・お花紙・丸シール
- ・お面作り（張り子）：風船・ボンド・筆・新聞紙・折り紙・絵の具
- ・小道具作り：廃材（各家庭に協力してもらい、集めた）・画用紙  
お花紙・スズランテープ・段ボール・風船

※全ての時に、はさみ・のり・クレヨン・マジックペンの道具を使用。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・前日から子ども達と相談の上、机などの配置を考えておいた。迷路のように机を移動させ、保育室を1周できるルートにした。
- ・子ども達が作ったお墓や目隠しなども設定して、おばけ役の子が後ろに隠れるようにした。
- ・乳児クラスの子も遊びに来る為、保育室の中を真っ暗にし過ぎないように配慮した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・どんなものを作りたいかや、どのようなコーナーを作るかなど子ども達発信で話し合う様子が見られた。
- ・おばけ屋敷当日は他クラスを招いて行った為、異年齢児交流をする姿も多く見られた。乳児クラスの子には優しく驚かそうとする優しい姿も見られた。
- ・子ども達から保育士に対してこんな物を作りたい、どうしたら他のクラスの子が驚いてくれるかなど相談してきた為、様々なアドバイスをしていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・保育園内の一つのクラスが、今回のようなおばけ屋敷などの小さな行事をすることで他クラスとの交流を持つことができる。また、普段関わることの少ない乳児クラスと楽しく交流できることも分かった。
- ・子ども達発信で進めていく行事は、子ども達自身も一生懸命に取り組み、いつも以上に集中して活動に参加することができていた。協力して一つの物を作り上げる時間が多い為、いつも関わらない友達と関わって製作をする様子も見られた。
- ・他クラスの子や保育士が楽しんでいる姿を見て、本クラスの子も嬉しそうにしていた。
- ・このような小さな行事をやることで、異年齢児交流をしていることを保護者にもアピールできると分かった。
- ・子ども達が主体となっておばけ屋敷作りを進めるサポートをしていくことができた。子ども達のやってみようという、ワクワクとした気持ちを大切にしながらまた別の活動を考えていきたいと感じた。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0995
施設名	西葛西おひさま保育園
施設所在地	江戸川区西葛西5-10-12
法人名	社会福祉法人えどがわ

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現（水族館ごっこ、製作）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

- ・様々な絵本・図鑑を通して魚の種類を調べたり、塗り絵、パズルを行う中で興味が深まっていった。
- ・秋の遠足も水族館にし、自分で経験した事を他クラスにも知って欲しいという意見も出てきた為
- ・一人ひとりの表現を大切に少人数で制作を行い、達成感を感じられるようにしていく。

### 2. 活動スケジュール

令和7年7月から令和7年12月まで

- ・7月～10月：水族館作り導入（海の生き物について知る）
- ・11月：秋の遠足（水族館）・制作開始
- ・12月18・19日：水族館当日

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・水族館導入：絵本・図鑑・塗り絵・色鉛筆・パズル
- ・水族館制作：画用紙・ポンド・模造紙・折り紙・絵の具・モール・毛糸・スズランテープ・筆

※全ての時に、はさみ・のり・クレヨン・マジックペン・セロハンテープの道具を使用。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・日頃から子ども達が制作した魚や絵を使い、階段一体に設定していった。
- ・様々なクラスの子もが見学出来るように階段に設定していった。
- ・どんなものを作りたいかや、どのようなコーナーを作るかなど子ども達発信で話し合う場面を設けていった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・自分で作りたい物を考え取り組んだ事により最後までやり切ろうとする姿が見られた。又チーム毎に個別で取り組んだ事で保育士の指示も行き届き最初から最後まで自分でじっくり行えた自信に繋がっていた。
- ・飾り付ける際はとても盛り上がり他クラスに見てもらおう事を楽しみにしていた。
- ・他クラスの友達や保育士から素敵だったよと言われた事で自信になった様であった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・クラスで子ども達が好きな事を半年を通して取り組んだ事で、子ども達一人ひとりの海の生き物についての理解が深まった。今回の子ども達が好きな事を共同制作として園に掲示する事で他クラスや保護者から褒められ、自信にも繋げる事が出来た。
- ・個別で制作を進める事で子ども達が自由な発想を受け入れる事が出来、子どもも自分の発想を発信出来ていた。
- ・個別の制作だけでなく協力して一つの物を作り上げた時間は少人数ずつ友達とやり取りを楽しみながら行う姿が見られた。関わって製作をする様子も見られた。
- ・他クラスの子や保育士、保護者が楽しんでいる姿を見て、子ども達も嬉しそうにしていた。
- ・来年は子ども達が主体となり様々な活動を進められるように、サポートをしていく事ができるように計画していきたい。また子ども達のやってみたくてという、わくわくとした気持ちを大切にしながらまた別の活動を考えていきたい。